

助成者	熱田 典子	活動期間	2021年4月～2024年3月
所属機関	公益社団法人 アジア協会アジア友の会	職名	副事務局長

持続可能な里山地域づくりに向け、バイオガスプラント設置による有機肥料生産から動物糞の適用利用システムと、ゴミ分別によるゴミのリサイクルシステム導入から資源循環をめざした地域環境システム形成活動

【活動場所】 ネパール シンドウパルチョーク郡 インドラワティ村

【事業目的】 ネパール山村の唯一のエネルギー源である森林の過伐採へ歯止めをかけるため、当村ではバイオプラント導入による自然保護活動を実施してこれまで成果を上げてきた。そこから当村を日本の里山をイメージした循環型農業を実施するモデル地域とする構想となり、その一環として本事業は地域の課題であるゴミ問題に焦点を当て活動を展開する。地域住民全員がゴミ問題を真剣に受け止め、ゴミ分別システムを導入して住民の意識改善を促し、集落毎にゴミステーション（ゴミ箱）の設置を行う。



ゴミ処理協議の様子



ゴミ分別研修終了後の写真

【活動内容】

①ゴミ分別・ゴミステーション設置

1年目：3校で講習会を実施し60名参加。3R 理解とゴミ分別ルール作りにつなげる。
2年目：58基ゴミステーション設置。ゴミ分別・処理研修6日開催（内学生向け3日）
3年目：50基ゴミステーション設置。学生及び地域リーダー向けゴミ管理研修を各開催

②バイオガスプラント設置：3年間通算40基設置、設置・活用セミナー5回実施

【活動成果】

バイオガスプラント設置は、家畜を導入し混合農業を実施する人が増えて再生エネルギーとしての理解が広まり、自己資金でプラント設置する人も出てきた。1年目はコロナで活動が制約されたが、コロナ明けは人や物の流通が一気に進み3年間でプラスチック関連ゴミが2倍に増え環境が大きく変化した。その状況下でゴミ分別・ゴミステーション設置活動を実施し、合計108個のゴミステーションを設置できた。小さな活動だがゴミ処理が集落で実施できることが住民主導で定着してきた。地域行政もこの活動へ理解を示して関心を持っており、今後官民共同でバイオマスタウンの先駆けとなる地域づくりへ展開したい。